



# エロウエーブル

ただいま実践中

ベランダに掛けたソーラーパネルで発電し、夜間の電力を賄うとともに、停電時の電源としても活用する。そんな頼りになる商品がヒットの兆しを見せている。

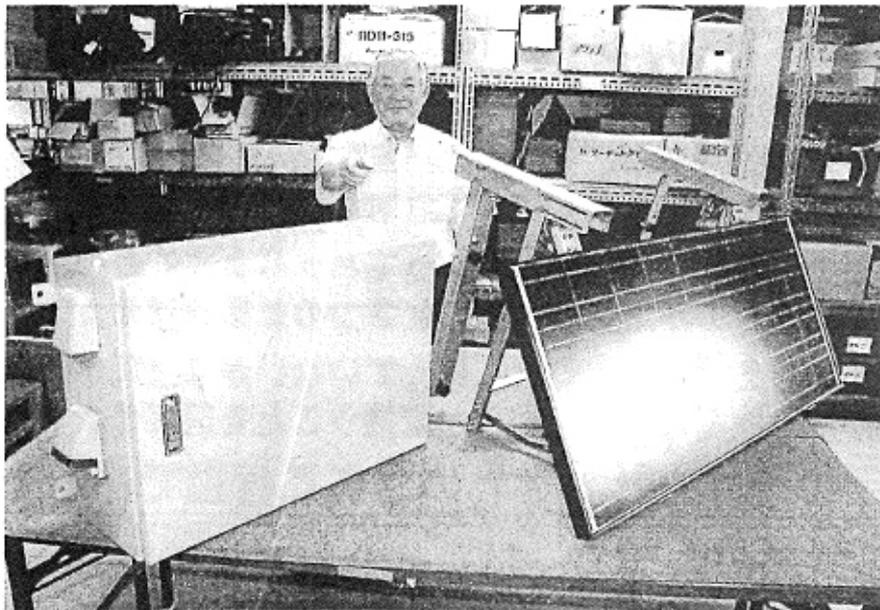
蓄電機能をしっかり備えて、災害時にも強い味方になる装置「ちくでんSUN」。大府市横根町の杉産業電機が製造している。

縦五十三センチ、横百二十センチのパネルで電気を生み、制御ボックスに蓄電する仕組み。「三日の充電で、14センチの液晶テレビが十時間見られる」と杉浦義治社長(右)は性能を説く。価格は一基三十四万円から。発売以来二年間で約二百二十台を売

## 大府の杉産業電機

## ソーラー発電・蓄電装置

▷ 13



太陽光発電・蓄電装置を前に「企業が技術を提供しないと地球が壊れる」と話す杉浦社長＝大府市横根町で

# 夜や停電時の電源に

り上げた。

同社の本業は工場のオートメーション化やライン管

理。「工場の省コスト」を得意とする会社。「家庭の省エネ」を持ち掛けたの

は、安城市の自然エネルギー。今、手を打たなければ、取り返しのない事態になる」と実感している。

た。

二酸化炭素削減やロハス(健康的で持続可能なライフスタイル)を目指し、個人宅でも気軽に使えるクリーンな発電装置の製造を、熱心に依頼された。「地球を守るため、企業が技術を提供することは企業の責任だと思った」と杉浦さん。

本気で普及に尽くすようになったのは二〇〇六年五月、アメリカの環境問題の研究者レスター・ブラウン博士の講演会へ中島さんに連れて行かれてから。温暖化は加速度的に進み、食料・燃料の不足が起きる...。講演で聞いた予測の正しさを証明するような今年の猛

装置の設置

には、ベランダを傷つけない工夫をし、台風でも倒れない強度を確保した。停電時の室内の非常用電灯を発売すれば、さらに省エネにつながることも研究。自治体には、災害用備蓄倉庫に設置する利点を売り込んでい

利用者は、夜にパソコンや携帯電話の充電器の電源として使っている、といった話を聞く。「我慢しなくても、無駄を省き、資源を有効利用したプラス思考の暮らしはできるはず」と杉浦さんは、さらなる改良に向け、心の陽を燃やしている。

(長坂幸枝)